

熊本市第7次総合計画  
基本計画分野別施策の見直しの方向性

令和元年8月8日  
熊 本 市

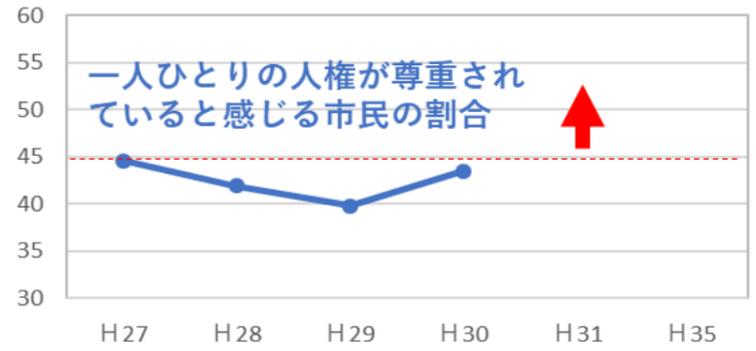
## 分野別施策 目次

第1章 互いに認め支え合い、だれもが平等に参画できる社会の実現	1
第2章 安全で心豊かに暮らせる地域づくりの推進	3
第3章 生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健福祉の充実	7
第4章 豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興	12
第5章 誇るべき良好な自然環境の保全と地球環境問題への積極的な対応	15
第6章 経済の発展と熊本の魅力の創造・発信	18
第7章 豊かな自然環境をいかした活力ある農水産業の振興	20
第8章 安全で利便性が高い都市基盤の充実	23
【参考】 SDGsの17の目標	31

# 第1章 互いに認め支え合い、だれもが平等に参画できる社会の実現

## 第1節 人権尊重社会の実現

検証指標	単位	基準値		実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35		
一人ひとりの人権が尊重されていると感じる市民の割合	%	44.6	41.9	39.8	43.5	上昇	上昇		



### 検証と課題

- これまでの人権問題に加え、インターネットによる誹謗中傷やヘイトスピーチ等、新たな人権課題が発生しており、数値の増減はあるものの基準値を下回っている。
- 今後も様々な人権課題に応じた教育と啓発活動が必要である。

### 方向性

人権尊重社会の実現に向け、ヘイトスピーチなど新たな人権問題にも対応し、人権教育・啓発の更なる強化を図る。

## 1 施策の体系

### 第1節

#### 【施策の目標】

人権尊重社会の実現

#### 【事業展開の基本方針】

1 人権尊重意識の高揚

2 人権擁護の推進

#### 【主な取組】

(1) 人権教育・啓発の推進

(2) ふれあい文化センターの利用促進

(3) 人権擁護活動の推進と体制の整備

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

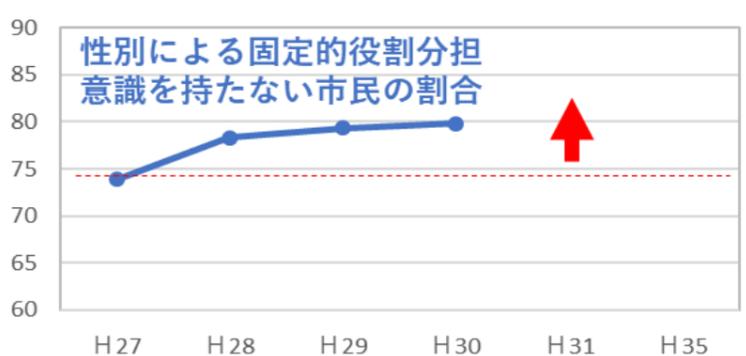


## 3 見直しの方向性

人権尊重社会の実現のため、ヘイトスピーチへの対応や性的マイノリティへの人権問題など多様化する人権課題に関し、人権教育・啓発の更なる強化を図る。

## 第2節 男女共同参画社会の実現

検証指標	単位	基準値		実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35		
性別による固定的役割分担意識を持たない市民の割合	%	73.9	78.3	79.3	79.8	上昇	上昇		



**検証と課題**

- ・基準値からわずかではあるが年々上昇しており、男女共同参画意識は高まっている。
- ・しかしながら、男女共同参画社会の実現を実感している割合が、約30%にとどまっており、今後も様々な分野で意識啓発・教育が必要である。

**方向性**

男女共同参画社会の実現に向け、関係機関との連携による啓発や女性の積極的な参画促進、性的マイノリティへの理解促進など、多様な能力や視点をいかす社会環境の整備に引き続き取り組む。

## 1 施策の体系

### 第2節

#### 【施策の目標】

男女共同参画社会の実現

#### 【事業展開の基本方針】

- 1 男女共同参画のための意識づくり
- 2 男女共同参画のための社会環境の整備

#### 【主な取組】

- (1) 男女共同参画意識の啓発・教育の推進
- (2) 男女共同参画の推進体制の整備と活動への支援
- (3) 男女共同参画センターはあもにいの利用促進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連



## 3 見直しの方向性

性的マイノリティに対する理解促進に向けた啓発や当事者が抱える生活上の解消に向けた支援に取り組む。

## 第2章 安全で心豊かに暮らせる地域づくりの推進

### 第1節 自主自立のまちづくり活動の活性化

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
地域活動(自治会等の活動、ボランティア・NPOの活動など)に参加した市民の割合	%	27.3	39.1	40.6	41.2	30	32	



検証と課題

- ・ H28に12ポイント上昇、その後も微増傾向であり検証値を達成している。熊本地震と復旧復興活動により地域活動への参加機運が醸成されたためと考えられる。
- ・ 今後も人口減少、少子高齢社会の更なる進展を見据え、区の特性を生かしたまちづくりを推進する必要がある。

方向性

自主自立のまちづくり活動の活性化に向け、区役所機能の強化や地域公民館等の地域活動拠点のあり方検討、人材育成・確保のための企業との連携など、地域活動の支援体制を強化する。

## 1 施策の体系

### 第1節

#### 【施策の目標】

自主自立のまちづくり活動の活性化

#### 【事業展開の基本方針】

1 参画と協働による地域活動の推進

#### 【主な取組】

(1) 住民自治活動の支援

(2) まちづくり支援機能の強化

(3) 地域活動拠点の整備・支援

(4) 市民による公益活動の推進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

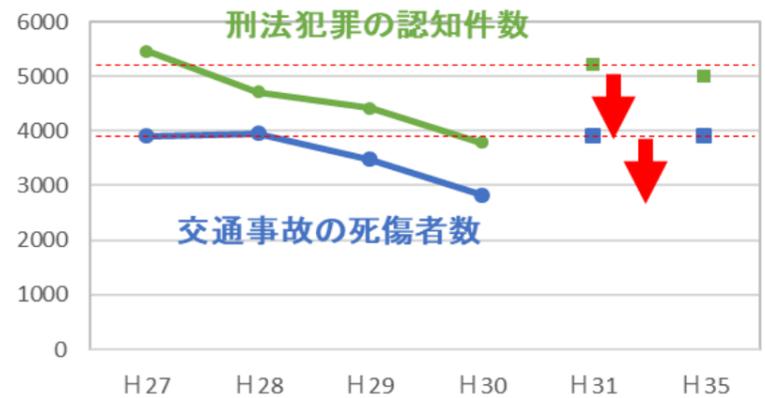


## 3 見直しの方向性

自主自立のまちづくり活動の活性化を図るため、まちづくりセンターにおける地域課題解決の仕組みを明確化し、更なる地域ニーズの反映に努めていく。

## 第2節 安全で安心して生活できる社会の実現

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
市内における交通事故の死傷者数(暦年)	人	3,903	3,949	3,484	2,828	3,900	3,900	
市内における刑法犯罪の認知件数(暦年)	件	5,460	4,712	4,421	3,784	5,200	5,000	



### 検証と課題

- ・交通事故の死傷者数は自動車の安全性能向上等により、刑法犯罪の認知件数は防犯活動等により、両指標ともに着実に減少、検証値を達成している。
- ・交通事故の死傷者のうち高齢者が半数以上を占め、高齢者の消費者トラブルが目立ちその対策が必要である。

### 方向性

安全で安心して生活できる社会の実現に向け、運転免許返納等による高齢者の交通事故防止や、高齢者等の消費者被害の未然防止、防犯カメラ等の設置による子ども・女性等を狙った犯罪防止などの取り組みを強化する。

## 1 施策の体系

### 第2節

#### 【施策の目標】

安全で安心して生活できる社会の実現

#### 【事業展開の基本方針】

1 交通安全の推進

2 防犯活動の推進

3 消費者の自立支援と救済

#### 【主な取組】

(1) 交通安全の啓発・支援

(2) 地域の防犯活動の推進

(3) 消費者教育の推進

(4) 消費者被害救済体制の充実

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

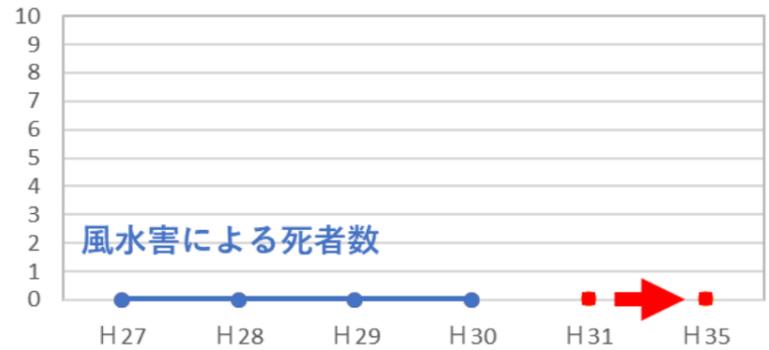


## 3 見直しの方向性

安全で安心して生活できる社会の実現のため、客引き行為等対策や防犯灯の整備支援等による地域防犯活動の更なる推進を図る。

### 第3節 防災・減災の推進

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
風水害による死者数	人	0 (H26)	0 (H27)	0 (H28)	0 (H29)	0	0	



検証と課題

- ・河川改修等のハード整備に加え、住民への早めの避難呼びかけや、平常時からの防災意識の啓発活動等により風水害による死者は発生していない。
- ・自助・共助の防災意識を風化させることなく、維持し更に高めるためには、不断の取り組みが必要である。

方向性

防災・減災の更なる推進のため、熊本地震の教訓をいかし、家庭内・企業内、避難所の備蓄の充実や災害時要援護者への避難支援の充実など、定期的な訓練を通じ、地域の防災力の強化を図る。

## 1 施策の体系

### 第3節

#### 【施策の目標】

防災・減災の推進

#### 【事業展開の基本方針】

1 地域防災力の向上

2 防災体制の強化

#### 【主な取組】

(1) 防災意識の啓発

(2) 自主防災活動の推進

(3) 災害時の体制強化及び拠点施設などの整備

(4) 関係機関との連携強化

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

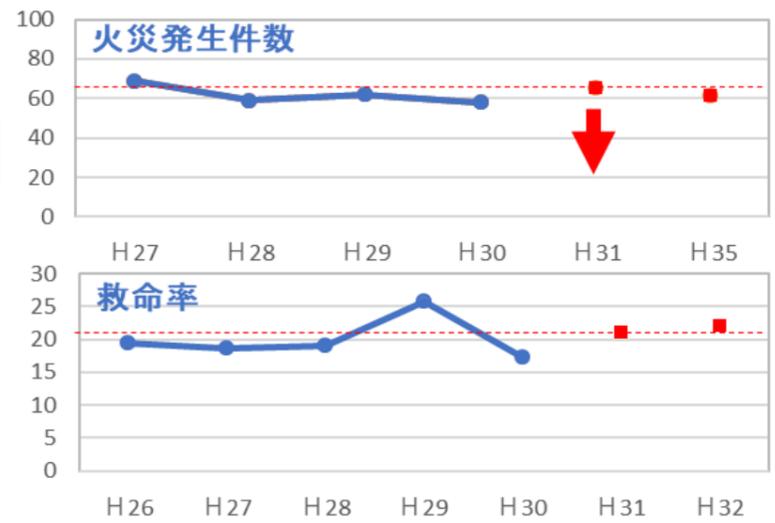


## 3 見直しの方向性

熊本地震での経験を踏まえ、校区防災連絡会の設置や企業との災害協定等による市民力・地域力・行政力を結集した防災・減災の更なる推進を図る。

## 第4節 火災・事故からの生命財産の保護

検証指標	単位	基準値		実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35		
火災発生件数(人為的ミスによるもの)(暦年)	件	69	59	62	58	65	61		
救命率(暦年)	%	19.4 (H26)	18.6 (H27) 19.1 (H28)	25.7 (H29)	17.2	21	22		



検証と課題

・火災発生件数は検証値に達している。電子煙草の普及による煙草火災の減少等が要因。一方救命率は、心肺停止で搬送された高齢者の割合が高かったことで低下。  
・今後も少子高齢社会や災害の多様化、大規模化等に対応した総合的な消防・防災対策が必要である。

方向性

火災・事故等からの生命財産を保護するため、テロ災害を含めあらゆる災害に対応するため更なる消防体制の強化や、救急件数の増加に対応した救急・医療体制の構築と市民の初動対応力の更なる向上に取り組む。

## 1 施策の体系

### 第4節

#### 【施策の目標】

火災・事故からの生命財産の保護

#### 【事業展開の基本方針】

- 1 火災予防対策の推進
- 2 消防体制の充実強化
- 3 地域防災力の強化

#### 【主な取組】

- (1) 市民への広報・啓発
- (2) 消防機能の充実
- (3) 救急救助体制の充実
- (4) 消防団の体制強化
- (5) 市民救護能力の向上

## 2 SDGs 17ゴールとの関連



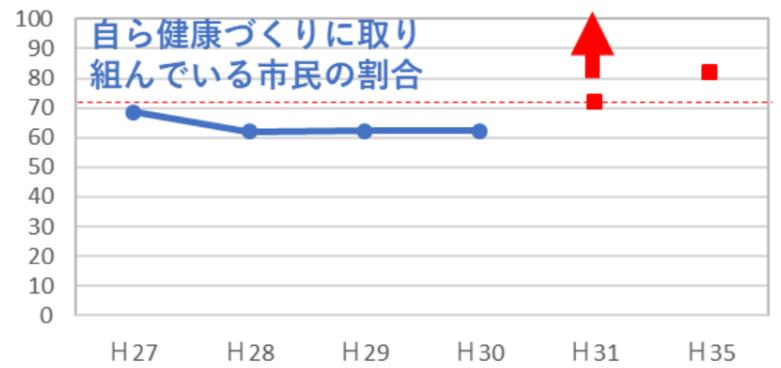
## 3 見直しの方向性

火災や事故から生命財産を保護するため、消防施設の耐震対策による更なる消防機能の充実に図るとともに、引き続き救急・医療体制の構築や市民の初動対応力の向上に取り組む。

# 第3章 生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健福祉の充実

## 第1節 生涯を通じた健康づくりの推進

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合	%	68.6	62	62.3	62.3	72	82	



**検証と課題**

- ・ H28に低下しその後横ばい、検証値には未達。生活再建で健康づくりに取り組むことができない市民がまだ一定数存在することなどが要因と考えられる。
- ・ 健康づくりへの無関心層へのきっかけづくりなど、健康行動の動機づけや意欲向上が必要である。

**方向性**

生涯を通じた健康づくりの推進に向け、引き続きがん検診の受診率向上による早期発見、早期治療に取り組むとともに、新たな健康ポイント事業を柱に据え、市民の健康づくりに関する取組を強化する。

## 1 施策の体系

### 第1節

#### 【施策の目標】

生涯を通じた健康づくりの推進

#### 【事業展開の基本方針】

1 健康づくりの支援

#### 【主な取組】

(1) 校区単位の健康まちづくりの推進

(2) 生活習慣病などの予防・悪化防止

(3) 栄養改善・食育の推進

(4) がん検診などの充実

(5) 歯と口腔の健康づくりの推進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

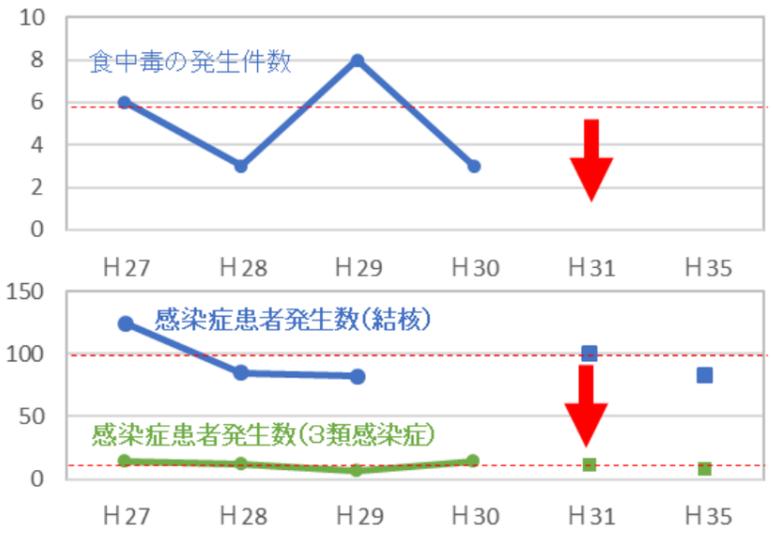


## 3 見直しの方向性

生涯を通じた健康づくりの推進のため、健康寿命延伸に向けた健康ポイント事業を柱に据え、市民自らが進んで健康増進を図れる環境づくりを強化する。

## 第2節 安全・安心のための保健衛生の向上と医療体制の充実

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
食中毒の発生件数(暦年)	%	6	3	8	3	減少	減少	
感染症患者発生数(暦年)	結核	人	124	85	82		100	82
	3類感染症	人	14	12	7	14	11	8
休日夜間の診療体制 ※グラフ無し	-	365日24時間 の初期 救急体制	維持	維持	維持	維持	維持	



検証と課題

- 食中毒数は、食品事業者への自主衛生管理の支援や研修会の開催等によりH29を除き減少。感染症は早期受診や服薬支援等を行っているがH30時点で横ばい。
- 少子高齢化や気候変動など社会環境の変化を見据え、食中毒・感染症の予防や医療体制の確保が必要である。

方向性

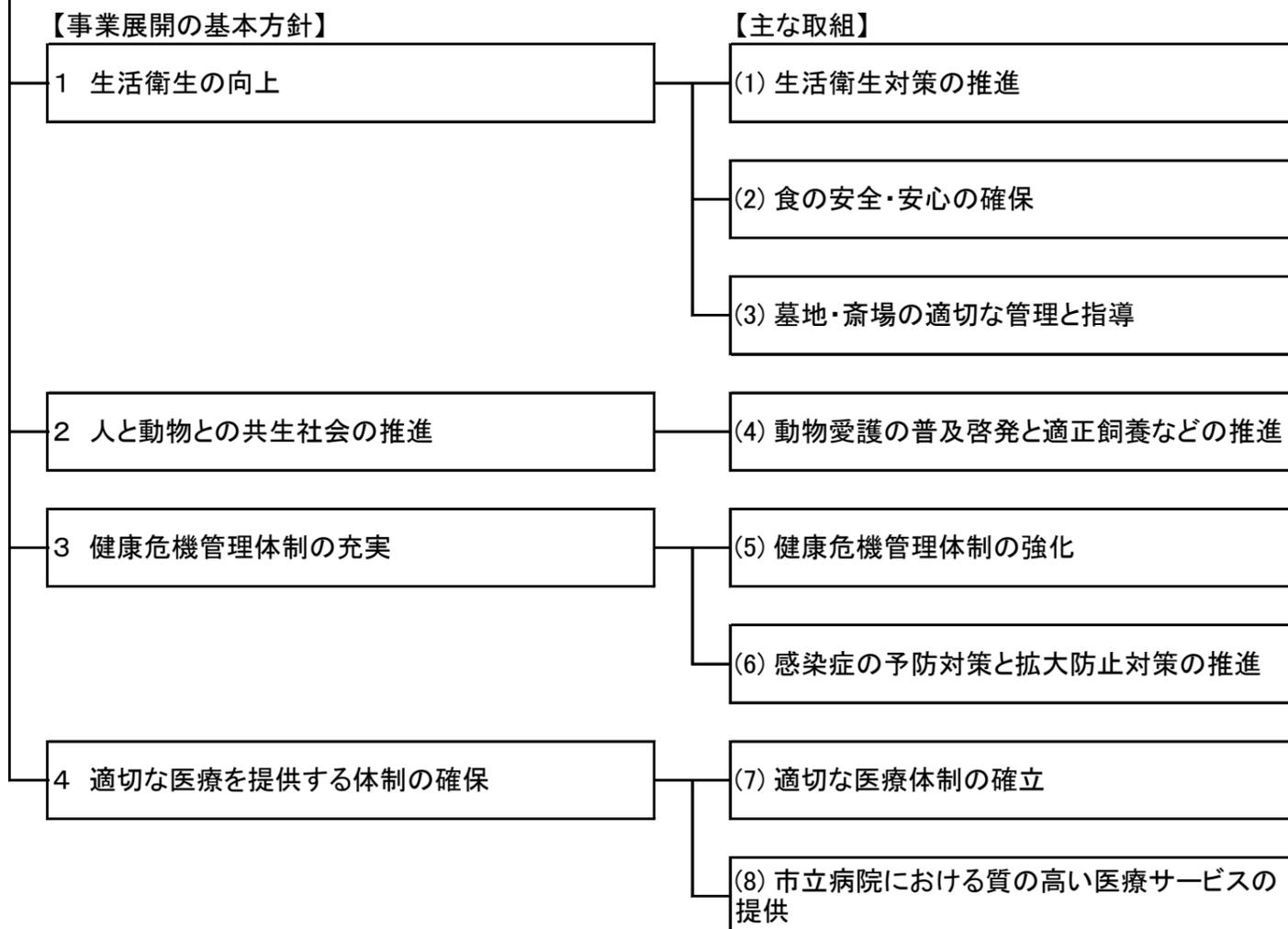
安全・安心のための保健衛生の向上と医療体制の充実に向け、HACCPに沿った衛生管理の導入や動物愛護を更に推進するとともに、持続可能な初期救急医療体制を構築する。

## 1 施策の体系

### 第2節

#### 【施策の目標】

安全・安心のための保健衛生の向上と医療体制の充実



## 2 SDGs 17ゴールとの関連

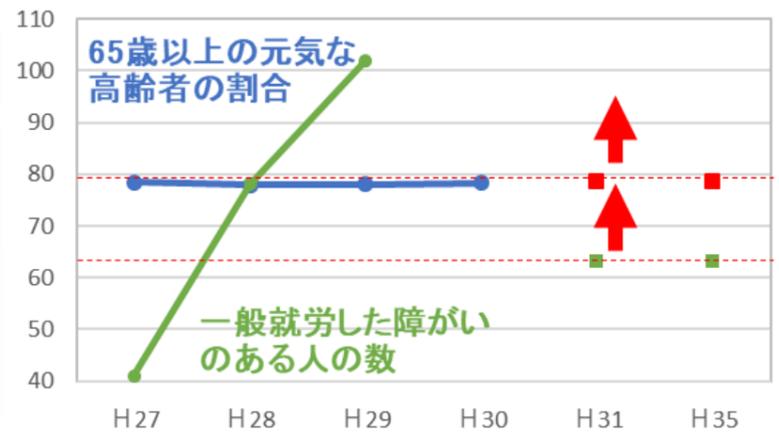


## 3 見直しの方向性

新しい熊本市民病院の役割を明確化し、質の高い医療サービスの提供と医療体制の充実を図るとともに、(市民病院の)持続可能で安定した病院経営の実現に取り組む。

### 第3節 高齢者、障がいのある人などが豊かに暮らせる環境づくり

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
65歳以上の元気な高齢者の割合	%	78.46	77.88	77.98	78.15	78.46	78.46	
一般就労した障がいのある人の数	人	41 (H26)	78	102		63	63	



検証と課題

- 65歳以上の元気な高齢者の割合(要介護・要支援の認定を受けていない方の割合)は、後期高齢者の増加等の要因により基準値を下回っている。
- 検証値達成のためには、地域住民による支え合いと公的支援が連動し健康づくりや介護予防等を実施していく必要がある。

方向性

高齢者、障がいのある人などが豊かに暮らせる環境づくりに向け、地域ぐるみで支え合うおたがいさまのまちづくりを促進するなかで、各区地域包括支援センターの機能強化、高齢者の生きがいつくりや社会参加機会の更なる拡大、(仮称)手話言語条例の制定など「地域共生社会」の実現に取り組む。

## 1 施策の体系

### 第3節

#### 【施策の目標】

高齢者、障がいのある人などが豊かに暮らせる健康づくり

#### 【事業展開の基本方針】

1 地域福祉活動の支援

2 高齢者が安心して暮らせる生活の支援

3 障がいのある人の自立支援

#### 【主な取組】

(1) 地域福祉活動の担い手への支援強化

(2) 地域包括ケアシステムの構築

(3) 高齢者の健康と生きがいつくり

(4) 介護保険制度の円滑な運営とサービスの質の向上

(5) 障がいに関する相互理解の促進

(6) 当事者のニーズに沿った適切なサービス・支援の提供

(7) 安心して生活を営み社会参加できる環境づくり

## 2 SDGs 17ゴールとの関連



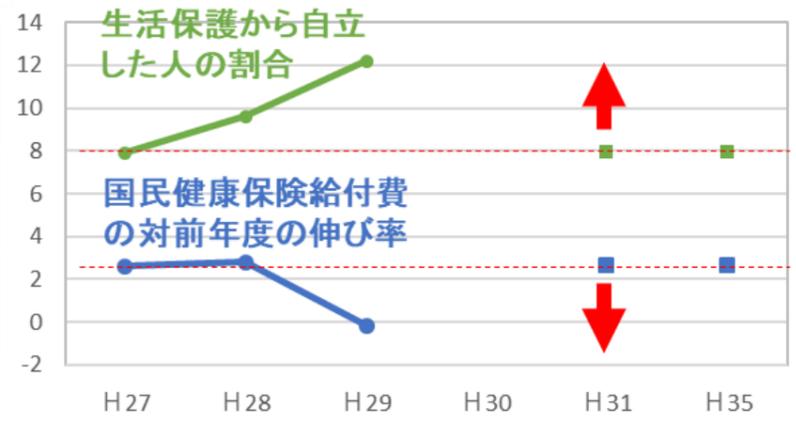
## 3 見直しの方向性

だれもが豊かに暮らせる環境づくりの実現に向け、高齢者や障がい者の権利擁護や児童虐待防止に向けた体制を強化するとともに、高齢化等に伴う地域における支え合いの基盤や、人と人のつながりの弱体化等を踏まえた「地域共生社会」の考え方を明確にする。

## 第4節 社会保障制度の適正な運営

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
国民健康保険給付費の対前年度の伸び率	%	2.6	2.8 (Δ1.3)	△0.18 (Δ0.55)		2.6	2.6	
生活保護から自立した人の割合	%	7.9 (H26)	9.6	12.2		7.9	7.9	

※国民健康保険給付費の対前年度の伸び率の( )は、地震影響分を控除した場合の伸び率(グラフには表示していない)



検証と課題

- ・国保給付費は、被保険者数の減等により伸び率は減少しているものの、前期高齢者の増加等により一人当たりの医療費は引き続き増加している。
- ・高齢化の進展に伴い社会保障費の増大が見込まれ予防等の給付費適正化に向けた対策の強化が必要である。

方向性

社会保障制度の適正な運営に向け、国民健康保険については保険料収納向上対策や医療費の適正化、生活保護については、生活保護受給者等への就労支援や保護世帯の子どもの学習支援などの取組を強化する。

## 1 施策の体系

### 第4節

#### 【施策の目標】

#### 社会保障制度の適正な運営

##### 【事業展開の基本方針】

1 国民健康保険事業の健全な運営

2 後期高齢者医療制度の円滑な運用

3 国民年金制度に対する理解と加入の促進

4 生活困窮者への適切な支援

5 生活保護制度の公平かつ適正な運用

##### 【主な取組】

(1) 国民健康保険会計の健全化

(2) 後期高齢者医療制度の周知及び健康増進支援

(3) 国民年金制度に関する周知・広報活動の充実

(4) 生活困窮者への就労・自立支援の推進

(5) 生活保護受給者への適切な支援

(6) 不正受給防止対策の実施

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

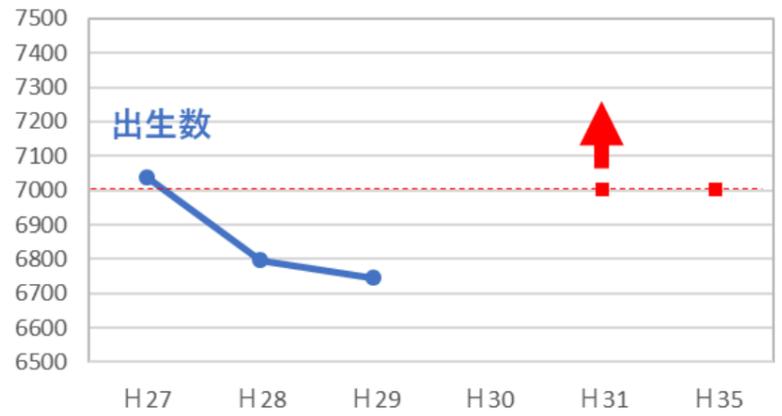


## 3 見直しの方向性

社会保障制度の適正な運営に向け、引き続き生活困窮者への就労・自立支援を推進するとともに、生活保護受給者の生活状況の把握や制度の周知に努めるなど生活保護の不正受給を防止する。

## 第5節 安心して子どもを産み育てられる環境づくり

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
出生数(暦年)	人	7,039 (H26)	6,797	6,746		7,000 以上	7,000 以上	



### 検証と課題

- 出生数の減少は、生活スタイルの多様化、結婚や家族に対する価値観の変化等による未婚化・晩婚化といった複雑化した課題が影響しているものと考えられる。
- 今後も子どもを産み育てやすい環境整備を総合的に進める必要がある。

### 方向性

安心して子どもを産み育てられる環境づくりに向け、引き続き地域における子育て支援サービスや保育サービスの充実等を図るとともに、要保護児童や障がい児等の社会的な支援が必要な子どもや家庭への支援を行う。

## 1 施策の体系

### 第5節

#### 【施策の目標】

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

#### 【事業展開の基本方針】

1 結婚・妊娠・出産・子育てしやすい環境づくり

#### 【主な取組】

- (1) 結婚支援の推進
- (2) 妊娠・出産などに関する母子保健対策の適切な実施
- (3) 地域における子育て支援サービス及び地域主体の子育て支援活動の充実
- (4) 保育サービス及び幼児教育の充実
- (5) 子育てにおける経済的な負担の軽減
- (6) 仕事と子育ての両立支援
- (7) 社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭への支援
- (8) ひとり親家庭に対する自立支援の推進

2 援助を必要とする子どもや子育て家庭への支援

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

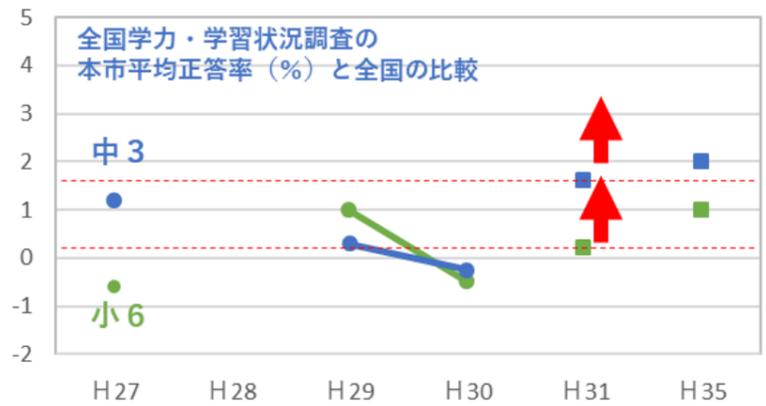


## 3 見直しの方向性

安心して子どもを産み育てられる環境づくりを実現するため、児童虐待防止に向けた体制づくりや子どもの貧困対策を強化し、問題を抱えている子どもや家庭に対する社会的な支援に取り組む。

# 第4章 豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興

## 第1節 学校教育における社会を生き抜く力の育成



検証指標	単位	単位	実績				検証値	
			基準値	H27	H28	H29	H30	H31
全国学力・学習状況調査の本市平均正答率(%)と全国の比較	小6	ポイント	▲0.6	-	1	▲0.5	0.2	1
	中3	ポイント	1.2	-	0.3	▲0.3	1.6	2

**検証と課題**

- ・ H30年度の平均正答率は、10項目のうち3項目で全国値よりも高いものの、4項目で全国値より低くなっており、検証値には達していない。
- ・ 徳・知・体の調和のとれた教育の推進に向けて、学力向上に向けた支援、教員の指導力向上等を図る必要がある。

**方向性**

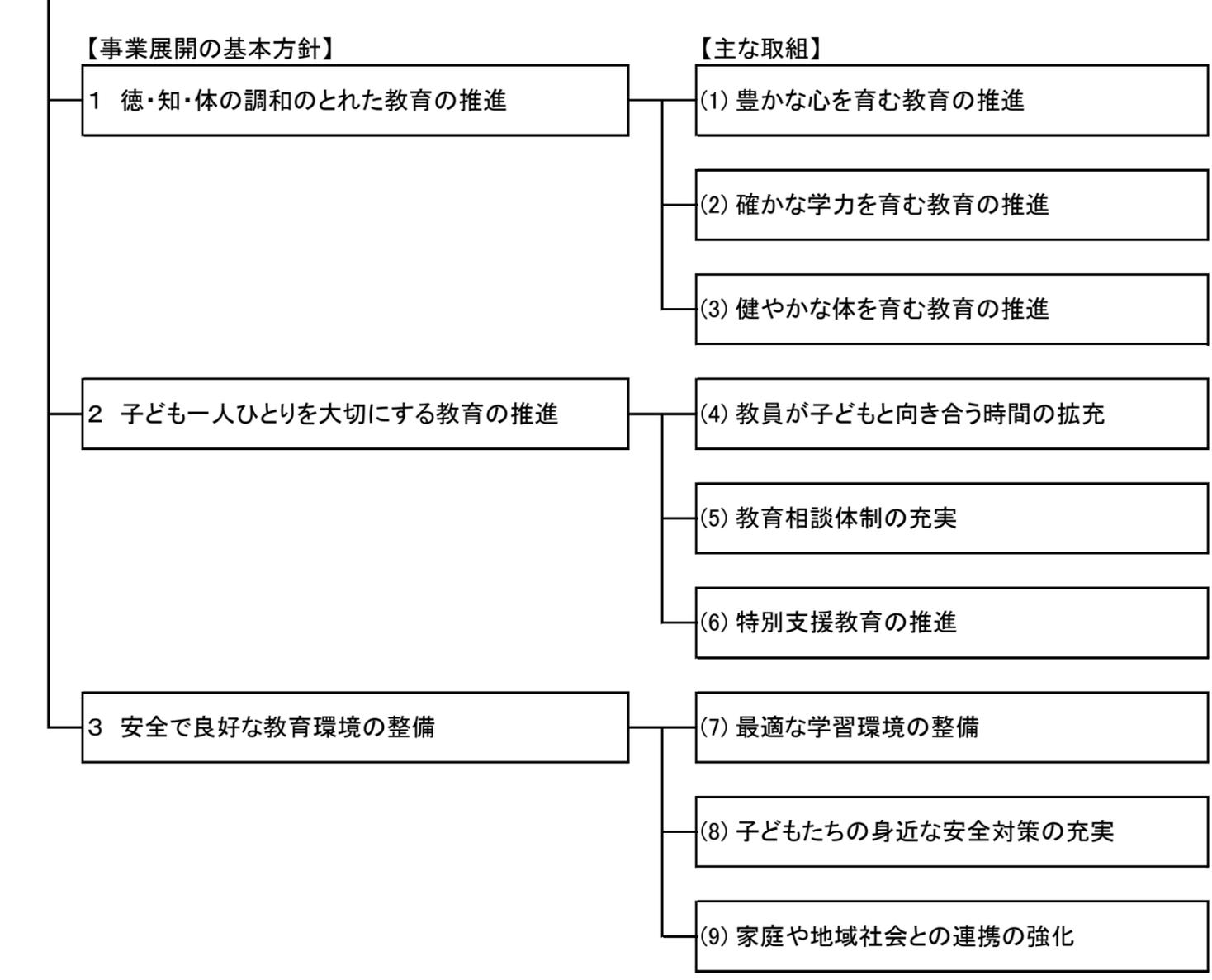
授業力向上支援員を、学校からの要望時だけでなく、必要に応じて学校訪問し授業に関する指導・助言等を行うなど、校内研修の充実への支援もできるような体制にする。また英語教育やICT活用等に関するモデル校での取組を公開し、効果的な授業方法についての周知を図る。

## 1 施策の体系

### 第1節

#### 【施策の目標】

学校教育における社会を生き抜く力の育成



## 2 SDGs 17ゴールとの関連

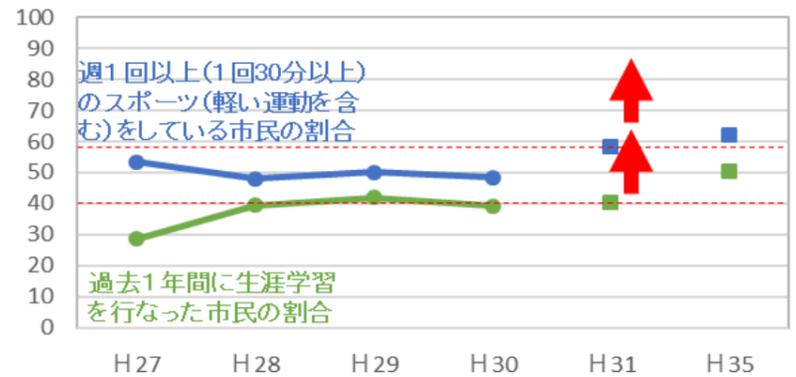


## 3 見直しの方向性

社会の変化を踏まえ、新学習指導要領及び『第3期教育振興基本計画』の考え方と、今後の教育政策の方向性の整合を図る。

## 第2節 生涯を通じた学習・スポーツの振興

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
過去1年間に生涯学習を行った市民の割合	%	28.6	39.5	42	39.3	40	50	
週1回以上(1回30分以上)のスポーツ(軽い運動を含む)をしている市民の割合	%	53.5	47.9	50	48.4	58	62	



検証と課題

- ・生涯学習の数は上昇しているが、生涯学習を行っていない理由として仕事や家事、きっかけがない等があり、ニーズを把握し活動を支援していく必要がある。
- ・スポーツは、震災による施設閉鎖の影響で数は減少しているが、復旧が進むにつれ回復傾向。検証値達成に向け、更なるスポーツ環境の整備が必要である。

方向性

生涯を通じた学習・スポーツの振興の向け、公設公民館のあり方を見直すなどニーズに即した生涯学習環境を整備するとともに、総合型地域スポーツクラブの育成・支援などスポーツ機会の充実に取り組む。

## 1 施策の体系

### 第2節

#### 【施策の目標】

生涯を通じた学習・スポーツの振興

#### 【事業展開の基本方針】

1 生涯学習社会の構築

2 スポーツの振興

#### 【主な取組】

(1) 生涯学習環境の整備

(2) 図書館・博物館の機能充実

(3) 青少年の健全育成

(4) スポーツ機会の充実

(5) 競技力の向上

(6) スポーツ施設の整備・機能充実

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

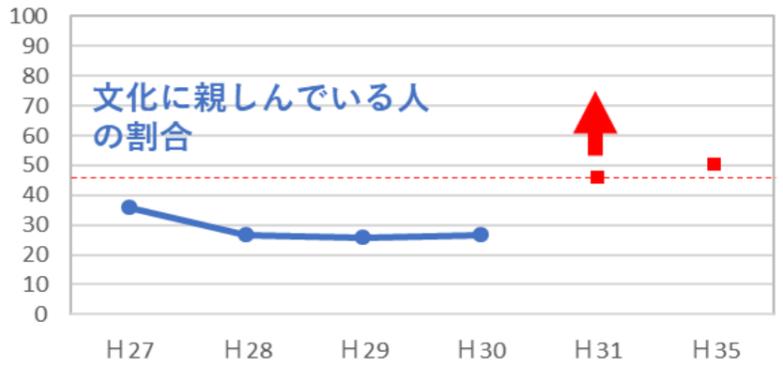


## 3 見直しの方向性

社会の変化を踏まえ、『第3期教育振興基本計画』の考え方と、今後の教育政策の方向性の整合を図る。

### 第3節 文化の振興と継承

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
文化に親しんでいる人の割合	%	35.7	26.5	25.6	26.6	46	50	



**検証と課題**

- ・震災の影響による文化施設や文化活動等の減少により文化に親しむ機会が減少し、検証値に達していない。
- ・文化に触れるきっかけとなる魅力的な「入口」を創るなど、“文化”に親しんでいるという実感を高めることも重要である。

**方向性**

文化の振興と継承に向け、引き続き被災文化財の災害復旧と、熊本城をはじめとした歴史的文化遺産の保存・整備・活用に取り組むとともに、文化行政を市政の中核として位置付け、多様な文化活動及び鑑賞機会の充実と文化の魅力向上と発信に取り組む。

## 1 施策の体系

### 第3節

#### 【施策の目標】

文化の振興と継承

#### 【事業展開の基本方針】

1 文化の振興

2 文化財の適正な保存・整備・活用

#### 【主な取組】

(1) 文化活動の支援

(2) 歴史的文化遺産の保存・整備・活用

## 2 SDGs 17ゴールとの関連



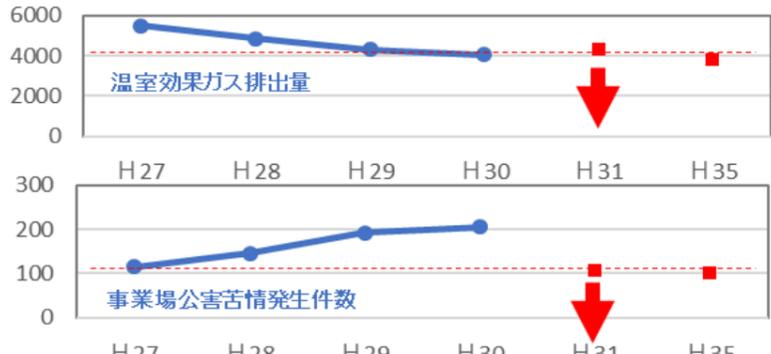
## 3 見直しの方向性

文化の振興と継承に向け、文化行政の組織体制を整え、地域の文化芸術に光をあて、文化を活かしたまちづくりを推進していくことを明記。加えて、千葉城地区(JT、NHK跡地)の整備の方向性を明示。

# 第5章 誇るべき良好な自然環境の保全と地球環境問題への積極的な対応

## 第1節 良好な地球環境や生活環境の保全

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
温室効果ガス排出量	千トン	5,481 (H25)	4,843 (H26)	4,316 (H27)	4,063 (H28)	4,263 (H29)	3,745 (H33)	
事業場公害苦情発生件数 (大気・騒音・振動・悪臭)	件	115 (H26)	146 (H27)	193 (H28)	205 (H29)	107 (H30)	100 (H34)	



**検証と課題**

- 温室効果ガスは、家庭での節電や省エネ技術の進んだ製品等の普及、企業の省エネ対策により、検証値に達しているものの、脱炭素社会の実現に向け、今後も抜本的な対策に取り組む必要がある。
- 公害苦情件数は震災に伴う復旧工事等により増加しており、発生を抑制する事前対策を講じる必要がある。

**方向性**

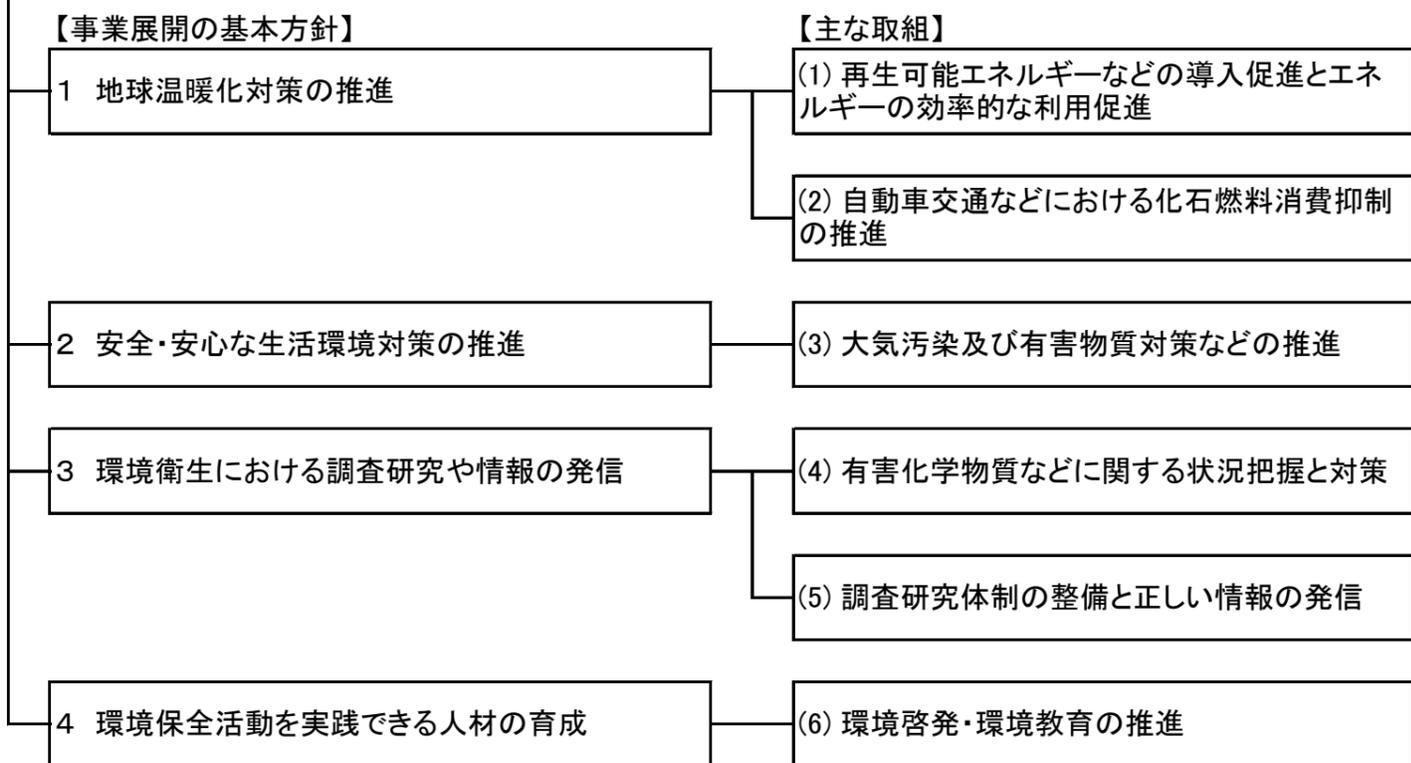
更なる温室効果ガス削減のため、創エネ・省エネ・蓄エネやエネルギー転換の促進など、エネルギー政策を中長期的に推進するとともに、経済や社会に関する複合的な課題の同時解決を目指す。また、公害苦情については、事業者に対し工事の施工前の指導を強化する。

## 1 施策の体系

### 第1節

#### 【施策の目標】

良好な地球環境や生活環境の保全



## 2 SDGs 17ゴールとの関連

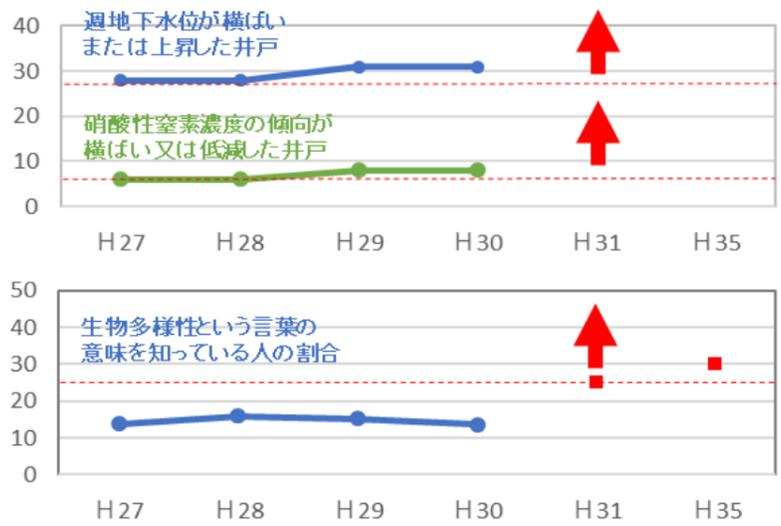


## 3 見直しの方向性

地域循環共生圏を見据えた中長期的な地域エネルギー政策を強化するとともに、世界共通の目標である「SDGs」を本市全体で推進するために普及啓発に取り組む。

## 第2節 魅力ある多様な自然環境の保全

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
地下水位が横ばいまたは上昇した井戸(対象観測井33本)の本数(暦年)	本	28 (H26)	28 (H27)	31 (H28)	31 (H29)	上昇 (H30)	上昇 (H34)	
硝酸性窒素濃度の傾向が横ばい又は低減した井戸(指標井戸20本)の本数	本	6 (H26)	6	8	8	上昇	上昇	
生物多様性という言葉の意味を知っている人の割合	%	13.8 (H26)	16	15	13.6	25	30	



**検証と課題**

- ・地下水位、硝酸性窒素濃度ともに井戸の本数は増加しており、今後も地下水保全対策に取り組む。
- ・生物多様性の認知度は、これまで基盤的取組が主であったため検証値に達していない。今後は小学生をはじめ市民の意識向上や知識の普及が必要である。

**方向性**

魅力ある多様な自然環境の保全に向け、市民全体への節水対策の浸透や熊本県及び近隣自治体、くまもと地下水財団等、住民・事業者等と連携した地下水保全対策の推進、未来を担う子ども達への生物多様性に関する普及啓発等に取り組む。

### 1 施策の体系

#### 第2節

#### 【施策の目標】

魅力ある多様な自然環境の保全

#### 【事業展開の基本方針】

1 恵まれた水資源の保全

#### 【主な取組】

(1) 地下水の質と量の保全及び公共用水域の水質保全

(2) 広域連携や協働による地下水の保全

(3) くまもと水ブランドの発信

2 生物多様性の保全と持続可能な利用

(4) 生物多様性に関する調査・情報収集・推進体制の整備

(5) 多様な生物の生息・生育環境の保全

(6) 街なかにおける緑の創出

### 2 SDGs 17ゴールとの関連

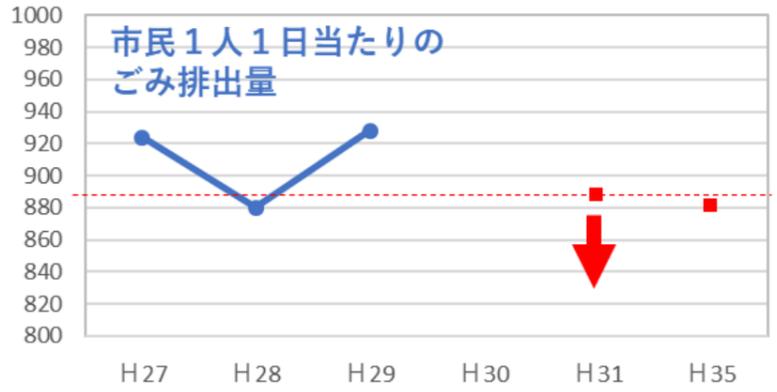


### 3 見直しの方向性

魅力ある多様な自然環境の保全に向け、引き続き地下水保全対策の推進や生物多様性に関する普及啓発等に取り組むとともに、国際会議等を通じて情報を発信し、水に関する諸問題の解決に貢献する。

### 第3節 持続可能な資源循環型社会の構築

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
市民1人1日当たりのごみ排出量	g/人・日	924 (H26)	880	928		888	881 以下	



**検証と課題**

- ・ H28は震災の影響で消費活動、生産活動が一部抑制されたことにより一時的にごみ排出量が減少したが、H29はその反動で増加し、検証値には達していない。
- ・ 今後も、更なるごみの発生抑制、リサイクル率の向上を図る必要がある。

**方向性**

持続可能な資源循環型社会の構築に向け、引き続きごみ排出量の削減や再資源化、使い捨てプラスチックの使用削減と容器包装の分別徹底を推進するとともに、資源物の持ち去りの根絶に向けた対策を強化する。

## 2 施策の体系

### 第3節

#### 【施策の目標】

持続可能な資源循環型社会の構築

#### 【事業展開の基本方針】

1 ごみ減量とリサイクルの推進

2 循環型ごみ処理体制の確立と適正処理

#### 【主な取組】

(1) ごみ減量・リサイクルの意識啓発

(2) ごみの発生抑制(リデュース)の推進

(3) 再使用(リユース)・再資源化(リサイクル)の推進

(4) 産業廃棄物の適正な処理

(5) 中間処理及び最終処分体制の整備

## 2 SDGs 17ゴールとの関連



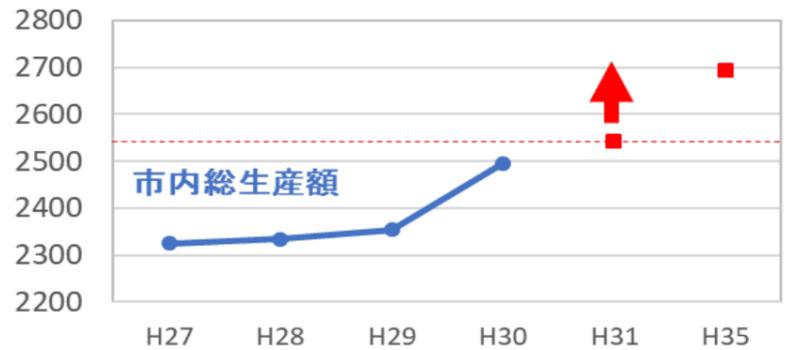
## 3 見直しの方向性

持続可能な資源循環型社会の構築のため、大量の食品類がごみとして処分されている状況を踏まえた食品ロス対策に取り組むとともに、世界的な課題となっているプラスチックごみの削減に向けた対策に取り組む。

# 第6章 経済の発展と熊本の魅力の創造・発信

## 第1節 地域経済の発展

検証指標	単位	基準値		実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35		
市内総生産額	十億円	2,325 (H24)	2,334 (H25)	2,354 (H26)	2,496 (H27)	2,541	2,692		



検証と課題

- 本市の景気は、基調としては緩やかに拡大している。設備投資や生産面では高水準を維持しているものの、労働需要は継続してひっ迫しており、人手不足の状況が続いている。
- 復興需要終了後を見据えた対策が必要である。

方向性

地域経済の発展に向け、人手不足の解消と復興需要終了後の中小企業の経営悪化の抑制や地域商店街の活性化、企業立地の更なる促進、企業と大学等の研究者とのマッチング、市内創業者に対する支援等を強化する。

※市内総生産額は算出までにタイムラグがあるため、検証値指標のみから地震の影響等を加味した検証を行うのは困難である。

## 1 施策の体系

### 第1節

#### 【施策の目標】

地域経済の発展

#### 【事業展開の基本方針】

1 成長産業の振興

2 中小企業への支援

3 商業・サービス業の活性化

4 企業誘致の推進

5 雇用の場の拡大

#### 【主な取組】

(1) 産学官連携、産業間連携などによる成長産業の振興

(2) 創業・経営革新・事業承継の支援

(3) ものづくり中小企業への支援

(4) 商店街の魅力向上

(5) 企業立地の促進

(6) 立地企業への支援

(7) 就職・就業の支援

(8) 産業人材の育成

(9) 勤労者への支援

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

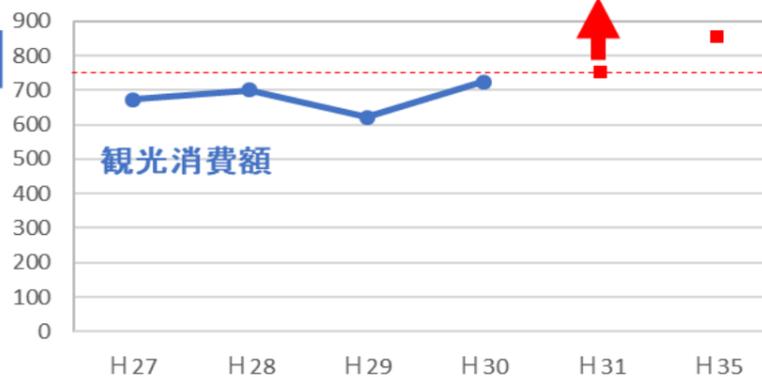


## 3 見直しの方向性

地域経済の発展に向け、桜町地区やJR熊本駅周辺の再開発等の復興の先の地域経済を支える対策に取り組むとともに、外国人を含めた「人材定着」「人材還流」対策に取り組む。

## 第2節 交流人口の増加

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
観光消費額(暦年)	億円	673 (H26)	700 (H27)	621 (H28)	725 (H29)	749	852	



検証と課題

- ・観光消費額は震災で大きく落ち込んだものの、復旧・復興に伴う観光客入込数の回復や、外国人宿泊客の増加を受けて、検証値には未達だが、回復傾向にある。
- ・今後は国際スポーツ大会や熊本城の特別公開等により交流人口、観光消費額ともに増加するものと考えられるが、その効果を一過性に終わらせない取組が重要である。

方向性

交流人口の増加に向け、欧米豪をより意識した海外展開や誘客・再訪の促進、外国人観光客も想定した熊本城及び水前寺江津湖公園の施設・サービスの充実、熊本城のプロモーションを戦略的に展開する。

## 1 施策の体系

### 第2節

#### 【施策の目標】

交流人口の増加

#### 【事業展開の基本方針】

1 観光客やMICEの誘致

2 観光資源の魅力の創造と向上

3 観光客受入態勢の充実

4 国際社会への対応

#### 【主な取組】

(1) 効果的な魅力の発信

(2) 連携・協働による観光客誘致活動の展開

(3) MICE誘致活動の展開

(4) にぎわいの創出

(5) 観光資源の魅力向上

(6) 受入態勢の向上

(7) 戦略的な海外との交流・連携の推進

(8) 地域国際化の推進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連



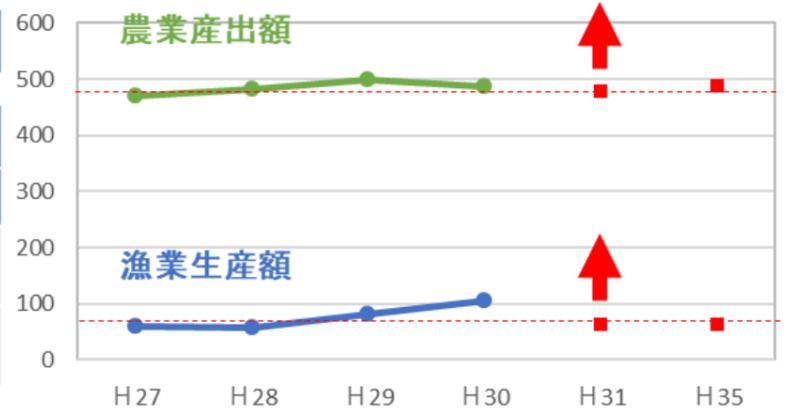
## 3 見直しの方向性

交流人口の増加に向け、国内外観光客のニーズ分析やキャッシュレス等の環境整備により観光客誘致体制を強化するとともに、効率的・計画的な熊本城の復旧を着実に進め、復旧過程の戦略的公開に取り組む。

# 第7章 豊かな自然環境をいかした活力ある農水産業の振興

## 第1節 競争力の高い農水産業の振興

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
農水産業の生産額(暦年)	農業産出額	億円	471 (H26)	481 (H27)	500 (H28)	487 (H29)	478	486
	漁業生産額	億円	60 (H25)	58 (H27)	82 (H28)	106 (H29)	62	63



検証と課題

- ・農業産出額・漁業生産額ともに検証値に達している。要因としては農水産物の単価向上に加え、特に農業分野は担い手の生産性向上や農地の利用集積、集約化が進んだことが挙げられる。
- ・今後も新たな技術等を活用し、効率的で災害に強い日本一の園芸産地を目指す。

方向性

競争力の高い農水産業の振興に向けた、災害に強い産地体制の構築と、ICTやAI技術等を活用したスマート農業や日本一園芸産地プロジェクトの推進に加え、鳥獣被害対策を実施。効率的なノリ養殖業や水産資源の維持・増殖のための協業化など効率的な体制を構築する。

## 2 施策の体系

### 第1節

#### 【施策の目標】

競争力の高い農水産業の振興

#### 【事業展開の基本方針】

1 園芸農業などの地域の特性をいかした農業の推進

2 稼げる畜産・水産業の推進

#### 【主な取組】

(1) 消費者・事業者ニーズに対応した良質な農産物の生産拡大

(2) 安定した農業生産・集出荷の推進

(3) 環境に配慮した農業及び安全・安心な農産物づくりの推進

(4) 収益性の高い畜産業の推進

(5) 漁業生産に係る支援

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

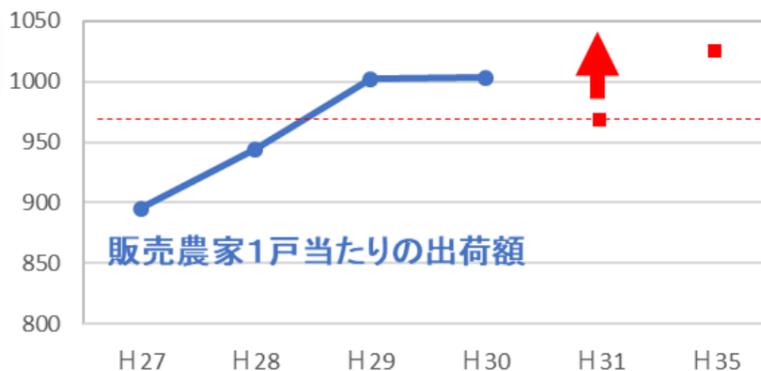


## 3 見直しの方向性

競争力の高い農水産業の振興に向け、ICTやAI技術等を活用したスマート農業や日本一園芸産地プロジェクトを更に推進する。

## 第2節 持続可能な農水産業のための経営基盤の確立

検証指標	単位	基準値		実績		検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35
販売農家1戸当たりの出荷額(推計)(暦年)	万円	895 (H26)	944 (H27)	1,002 (H28)	1003 (H29)	968	1,025



検証と課題

- 販売農家の減少を抑えつつ、農業産出額が増加していることから、販売農家1戸あたりの出荷額も年々増加しており、検証値に達している。
- 今後も担い手の育成や経営基盤の確立を図るための施策を展開し、出荷額の維持・向上に努める必要がある。

方向性

持続可能な農水産業のための経営基盤の確立に向け、認定農業者の再認定による中心的担い手の育成・確保、担い手への農地集積や集約化に向けた支援、農地及び土地改良関連施設の整備・保全、漁場改善及び計画的な漁港施設の整備・保全を推進する。

## 1 施策の体系

### 第2節

#### 【施策の目標】

持続可能な農水産業のための経営基盤の確立

#### 【事業展開の基本方針】

1 経営体の強化

2 生産基盤の整備・保全

#### 【主な取組】

(1) 担い手の育成・確保の推進

(2) 経営の安定化

(3) 農地及び土地改良関連施設整備・保全の推進

(4) 漁場及び漁港施設の整備・保全の推進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

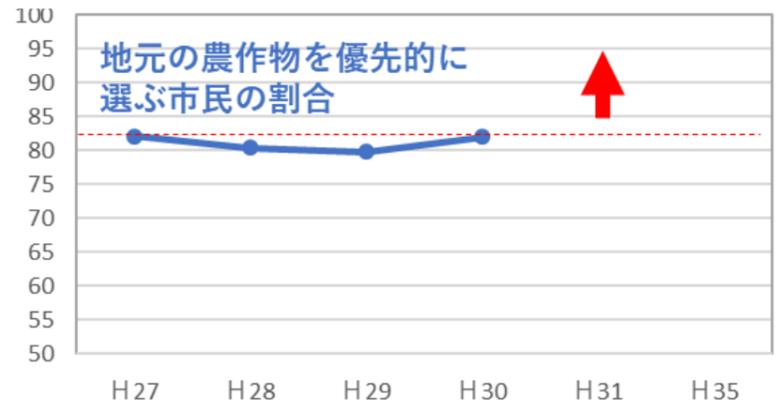


## 3 見直しの方向性

熊本地震や集中豪雨等、近年多発する自然災害や国の定める国土強靭化基本計画等を踏まえ、防災・減災に向けた取組や土地改良区の体制を強化

### 第3節 農と食の魅力創造

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
地元の農作物を優先的に選ぶ市民の割合	%	82.1	80.4	79.8	82.0	上昇	上昇	



検証と課題

- ・農水産業や食をテーマにした情報発信や首都圏でのPR等に取り組むなか、数値は約8割で横ばいである。
- ・今後も、本市の農水産物について国内外に対し効果的なプロモーションを行うとともに、ブランド化や販路拡大を進めていく必要がある。

方向性

農と食の魅力創造に向け、引き続き本市の農水産物のブランド化・付加価値向上に向けた効果的な情報発信や多様な販路の確保・拡大に取り組む。城南物産館や植木地域農産物の駅の課題解決に向け、地元農水産物を購入する機会を提供し、地産地消を推進する。

## 1 施策の体系

### 第3節

#### 【施策の目標】

農と食の魅力創造

#### 【事業展開の基本方針】

1 生産者と消費者の交流の拡大

2 6次産業化・農商工連携の推進

#### 【主な取組】

(1) 農水産業や食をテーマにした情報発信と交流促進

(2) 地産地消の推進

(3) 地元農水産物を利用した新商品開発

(4) 地元農水産物の流通拡大の推進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連



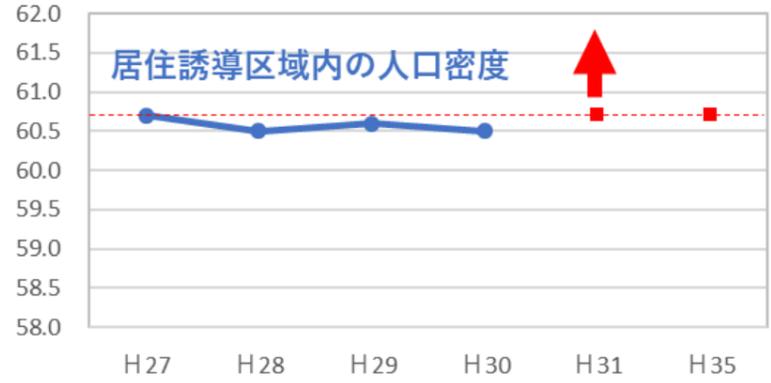
## 3 見直しの方向性

農と食の魅力創造に向け、本市の農水産物のブランド化・付加価値向上に向けた効果的な情報発信や多様な販路の確保・拡大の取組を強化する。

# 第8章 安全で利便性が高い都市基盤の充実

## 第1節 計画的な都市づくり

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
居住誘導区域内の人口密度(住民基本台帳ベース)	人/ha	60.7	60.5	60.6	60.5	60.7	60.7	



検証と課題

- ・基準値から減少傾向にある理由として、熊本地震による影響や人口減少による自然減、より安価な郊外部への移動等が考えられる。
- ・今後も人口減少社会や大規模災害の発生を見据え、多核連携都市の実現や防災機能強化に向けた取組を推進する必要がある。

方向性

計画的な都市づくりに向け、居住や誘導施設の立地等に対するインセンティブの検討や駐車場の供給過剰への対応、都市の防災機能強化と魅力的な公共的空間の創出、歴史的風致維持向上計画の推進等に取り組む。

## 1 施策の体系

### 第1節

#### 【施策の目標】

計画的な都市づくり

#### 【事業展開の基本方針】

1 都市機能の維持・確保と適正な土地利用の推進

2 良好な都市景観の形成

3 市民の憩いの場となる空間の提供

#### 【主な取組】

(1) 多核連携都市づくりの推進と適正な土地利用への誘導

(2) 良好な市街地の整備

(3) 地域の特性に即した都市景観の保全、育成、創造

(4) 市民協働、民間活力の導入による公園の管理運営と魅力ある公園づくり

(5) 水前寺江津湖公園の保全と利活用の推進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

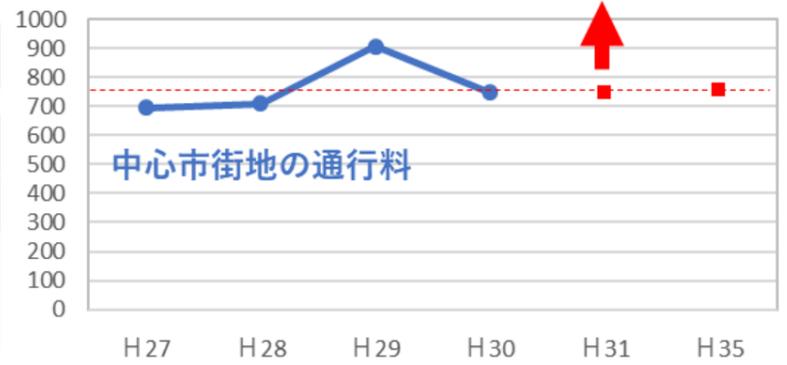


## 3 見直しの方向性

計画的な都市づくりに向け、引き続き駐車場の供給過剰への対応や都市の防災機能強化に取り組むとともに、今後の公園のあり方や全国都市緑化フェアの開催に伴う都市緑化の推進に取り組む。

## 第2節 魅力と活力のある中心市街地の創造

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
中心市街地の通行量 (中心商店街26地点、熊本駅前3地点の合計)	人	695,892	709,188	906,648	747,324	745,000	758,000	



検証と課題

- ・(仮称)花畑広場におけるイベント等の開催により商店街のにぎわいが創出され、中心市街地の通行量は増加傾向にあり、検証値を達成している。
- ・今後も、中心部と熊本駅周辺部双方の回遊性を高める一体的なまちづくりを進め、中心市街地の更なるにぎわい創出や魅力ある都市空間の形成を図る必要がある。

方向性

魅力と活力のある中心市街地の創造に向け、オープンスペースの整備等によるにぎわい創出と回遊性の向上、建物の建替えによる都市機能の集積と良好な景観形成、熊本駅のハード・ソフト両面での防災機能強化と周辺のまちづくりに取り組む。

## 1 施策の体系

### 第2節

#### 【施策の目標】

魅力と活力のある中心市街地の創造

#### 【事業展開の基本方針】

1 活力ある「くまもとの顔」づくり

2 魅力ある「くまもとの玄関」づくり

#### 【主な取組】

(1) 中心市街地のにぎわい創出と回遊性の向上

(2) 鹿児島本線等連続立体交差の促進と熊本駅白川口(東口)駅前広場の整備

(3) 熊本駅周辺のまちづくりの推進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

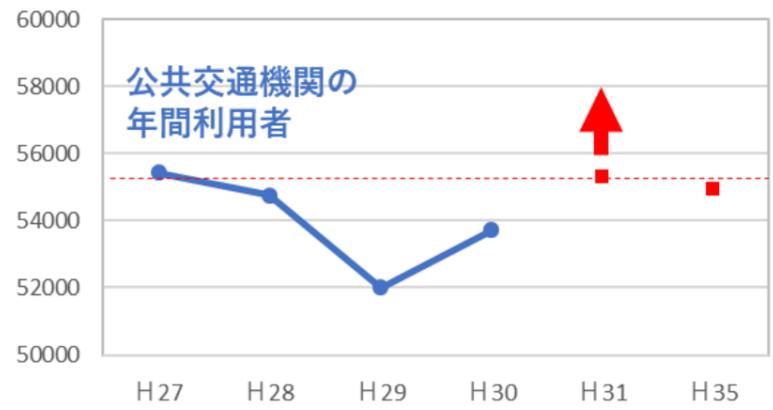


## 3 見直しの方向性

魅力と活力のある中心市街地の創造に向け、都市デザイン(老朽施設の建替促進や駐車場配置の適正化、公共サイン等)の整備に取り組み、歩いて楽しめる都市空間を創出する。

### 第3節 だれもが安心して移動できる公共交通体系の確立

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
公共交通機関の年間利用者	千人/年度	55,436 (H26)	54,761 (H27)	52,015 (H28)	53,721 (H29)	55,302	54,933	



検証と課題

- ・鉄軌道は定時性・速達性等の観点から微増傾向だが、バスは乗務員不足による減便等から減少傾向にあり、総じて公共交通機関の利用者は減少傾向である。
- ・今後も、多核連携都市にける公共交通ネットワークの再構築や公共交通機関の利便性向上等に取り組む必要がある。

方向性

だれもが安心して移動できる公共交通体系の確立に向け、基幹公共交通の強化、バス路線網の再編、公共交通空白地域等の解消など、公共交通と自動車交通のベストミックスに取り組むとともに、市電の利用促進や機能強化を図る。

## 1 施策の体系

### 第3節

#### 【施策の目標】

だれもが安心して移動できる公共交通体系の確立

#### 【事業展開の基本方針】

1 持続可能な公共交通網の形成及び公共交通の利便性向上

#### 【主な取組】

- (1) 公共交通ネットワークの維持・再構築
- (2) 主要交通拠点などの整備促進
- (3) 公共交通機関の利用促進
- (4) 公共交通空白地域などへの対応

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

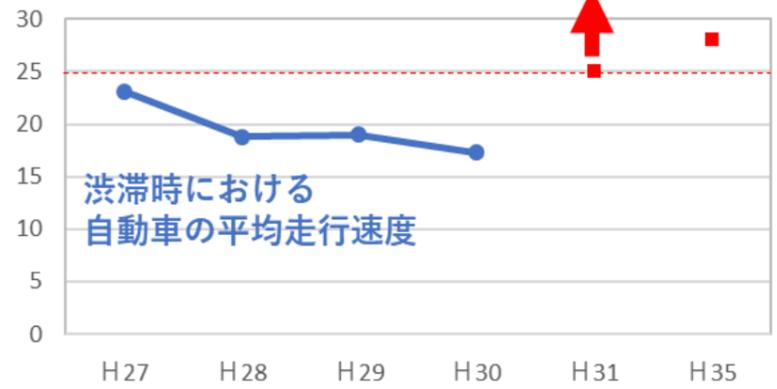


## 3 見直しの方向性

だれもが安心して移動できる公共交通体系の確立に向け、分かりやすく利便性の高い公共交通体系の確立や、バス路線網の再編・運行体制に見直しに取り組む。

## 第4節 良好な道路環境の実現

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
渋滞時における自動車の平均走行速度	km/h	23.1	18.8	19.0	17.3	25.0	28.0	



検証と課題

- ・交通量に対し、骨格となる幹線道路の容量が不足していると見込まれ、渋滞時における自動車の平均走行速度は低下傾向にあり、検証値には達していない。
- ・今後も、幹線道路や交差点の整備はもとより、すべての人にやさしい道路空間の構築や老朽化した道路施設の維持管理などに取り組む必要がある。

方向性

良好な道路環境の実現に向け、道路交通を整流化する幹線道路や交差点等の整備促進、道路ネットワークを構築、市中心部の歩道のバリアフリー化、歩道整備率の改善などに取り組む。

## 1 施策の体系

### 第4節

#### 【施策の目標】

良好な道路環境の実現

#### 【事業展開の基本方針】

- 1 円滑な道路交通の実現
- 2 安心・安全な道路の実現

#### 【主な取組】

- (1) 都市の基盤となる幹線道路網の整備
- (2) 安全で快適な生活道路・歩行空間の整備
- (3) 自転車利用環境の向上
- (4) 道路施設などの維持管理と財産の管理

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

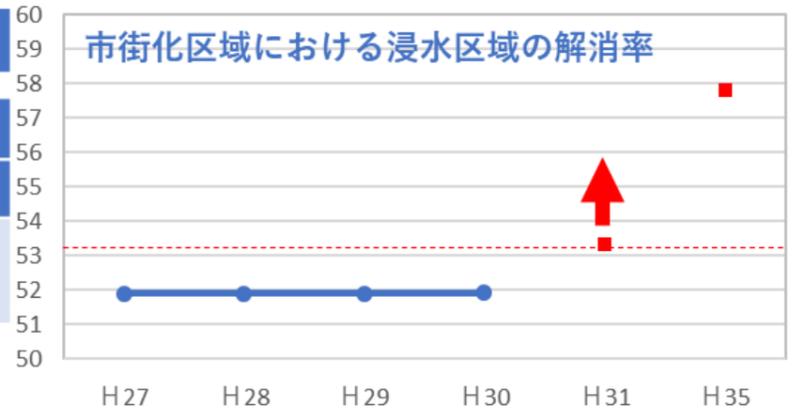


## 3 見直しの方向性

良好な道路環境の実現に向け、都市計画道路や幹線道路の整備を計画的かつ効率的に進めるとともに、広域的な道路ネットワークの強化や都市内交通の円滑化などの将来の構想・計画を立案する。

## 第5節 洪水や都市型水害による被害の防止・軽減

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
市街化区域における浸水区域の解消率(時間雨量60mm以下における浸水解消)	%	51.9	51.9	51.9	51.9	53.3	57.8	



**検証と課題**

- 市街化区域における浸水区域の解消率は横ばいで推移しているが、現在着手済の浸水解消対策事業の完了に伴い将来的には解消率が向上する見込みである。
- 今後も国・県と連携し、環境に配慮した河川整備や住宅地における浸水対策を着実に推進する必要がある。

**方向性**

洪水や都市型水害による被害の防止・軽減に向け、近年頻発する局地的かつ短時間の大雨への対応、国や県が管理する河川の整備の促進、調整池の適切な維持管理のため、出水期前に万全の対応を実施する。

## 1 施策の体系

### 第5節

#### 【施策の目標】

洪水や都市型水害による被害の防止・軽減

#### 【事業展開の基本方針】

1 計画的な河川の整備

#### 【主な取組】

(1) 環境に配慮した河川整備の推進

2 浸水対策の推進

(2) 雨水排水施設の整備

(3) 雨水流出抑制対策の推進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

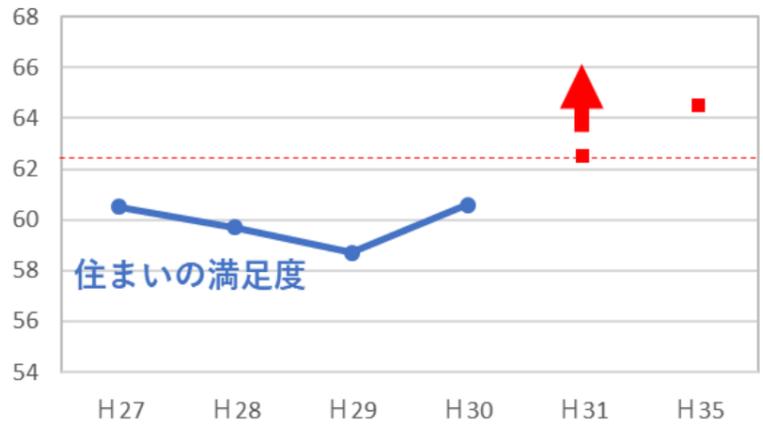


## 3 見直しの方向性

近年の局地化、集中化、激甚化する豪雨災害の状況や課題を踏まえ、災害に強い河川整備を推進することを明確化

## 第6節 豊かな住生活の実現

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
住まいの満足度(住んでいる住宅の満足度)	%	60.5	59.7	58.7	60.6	62.5	64.5	



**検証と課題**

- ・住まいの満足度は、震災の影響により一時減少し、検証値には達していないものの、復旧や再建の進捗、相談会や耐震改修等の取組によりH30年度は上昇した。
- ・今後も豊かな住生活の実現に向け、増加する空き家対策や耐震化支援、市有建築物の計画的な保全に取り組む必要がある。

**方向性**

豊かな住生活の実現に向け、危険性のある状態の空家等への対応と、空き家化の予防や空き家の活用、戸建木造住宅、分譲マンションへの耐震化支援、老朽化した市営住宅の建て替え促進と、入居者の安全確保や良好な住環境を整備する。

### 1 施策の体系

#### 第6節

#### 【施策の目標】

豊かな住生活の実現

#### 【事業展開の基本方針】

1 良好な居住環境の形成

#### 【主な取組】

(1) 住宅に関する情報の提供と良質な住まいづくりの推進

(2) 空き家の予防や利活用などの推進

(3) 良好な居住環境への誘導

2 建築物の安全対策の推進

(4) 建築物の耐震化の推進

(5) 安全・安心で利用しやすい市有建築物の整備

(6) 計画的な保全による市有建築物の長寿命化

3 良好な市営住宅などの供給

(7) 市営住宅の計画的な建て替え

(8) 市営住宅などの適切な維持管理

### 2 SDGs 17ゴールとの関連

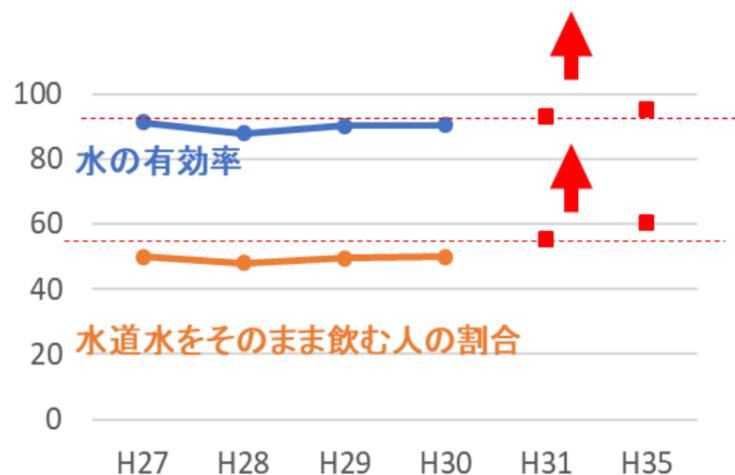


### 3 見直しの方向性

豊かな住生活の実現に向け、危険性のある状態の空家等の適正管理や空き家化の予防、空き家の有効活用など総合的な空き家対策に取り組む。

## 第7節 安全でおいしい水道水の安定供給

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
水の有効率	%	91.3	87.8	90.2	90.3	93	95	
水道水をそのまま飲む人の割合	%	50.0	48.1	49.5	50.0	55	60	



### 検証と課題

・水の有効率は、積極的な漏水調査と修繕等により地震前までの水準に回復した一方、水道水をそのまま飲む人の割合は、衛生面の懸念を背景として減少傾向。  
 ・今後も、経営安定化を図りつつ、水道施設の適切な維持管理や効果的広報等に取り組む必要がある。

### 方向性

安全でおいしい水道水の安定供給に向け、引き続き水道施設の適切かつ効率的な維持管理と計画的な更新、耐震化及び災害対応能力を強化するとともに、水道水の品質管理体制の維持や効果的広報に取り組む。

## 1 施策の体系

### 第7節

#### 【施策の目標】

安全でおいしい水道水の安定供給

#### 【事業展開の基本方針】

1 水道施設の適切な維持管理と整備

2 水質の保全

3 災害に強い水道の確立

#### 【主な取組】

(1) 老朽化施設の計画的な更新

(2) 水道施設の維持管理

(3) 水道施設の普及推進

(4) 安全な水道水の供給

(5) 水道水源の保全

(6) 地震対策の推進

## 2 SDGs 17ゴールとの関連

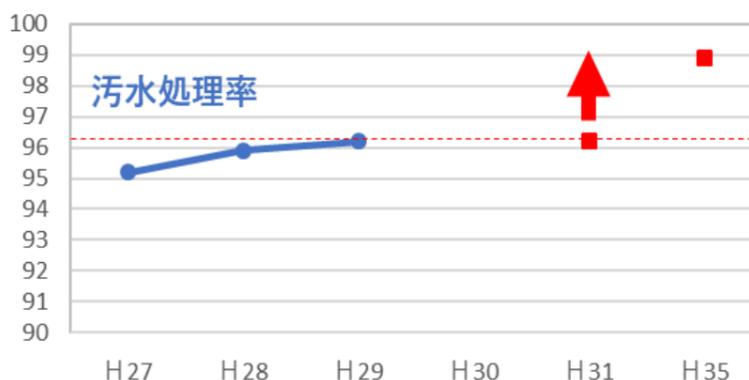


## 3 見直しの方向性

安全でおいしい水道水の安定供給に向け、熊本地震を踏まえた対策を推進するため、老朽化施設の計画的な更新、基幹管路の耐震化と応急給水体制の機能強化に取り組む。

## 第8節 総合的な汚水処理対策による良好な水環境の実現

検証指標	単位	基準値	実績				検証値	
		H27	H28	H29	H30	H31	H35	
汚水処理率(公共下水道普及率+合併処理浄化槽普及率+農業集落排水普及率)	%	95.2 (H26)	95.9	96.2		96.2	98.9	



検証と課題

- 合併処理浄化槽の整備などにより、汚水処理率は総じて増加傾向にあるものの、公共下水道普及率は目標を下回っている。
- 今後も、下水道の未普及地域への整備を進めるとともに、合併浄化槽への転換を進める。また、老朽化した下水道施設の計画的な更新・維持管理や、水質の改善に努めていく必要がある。

方向性

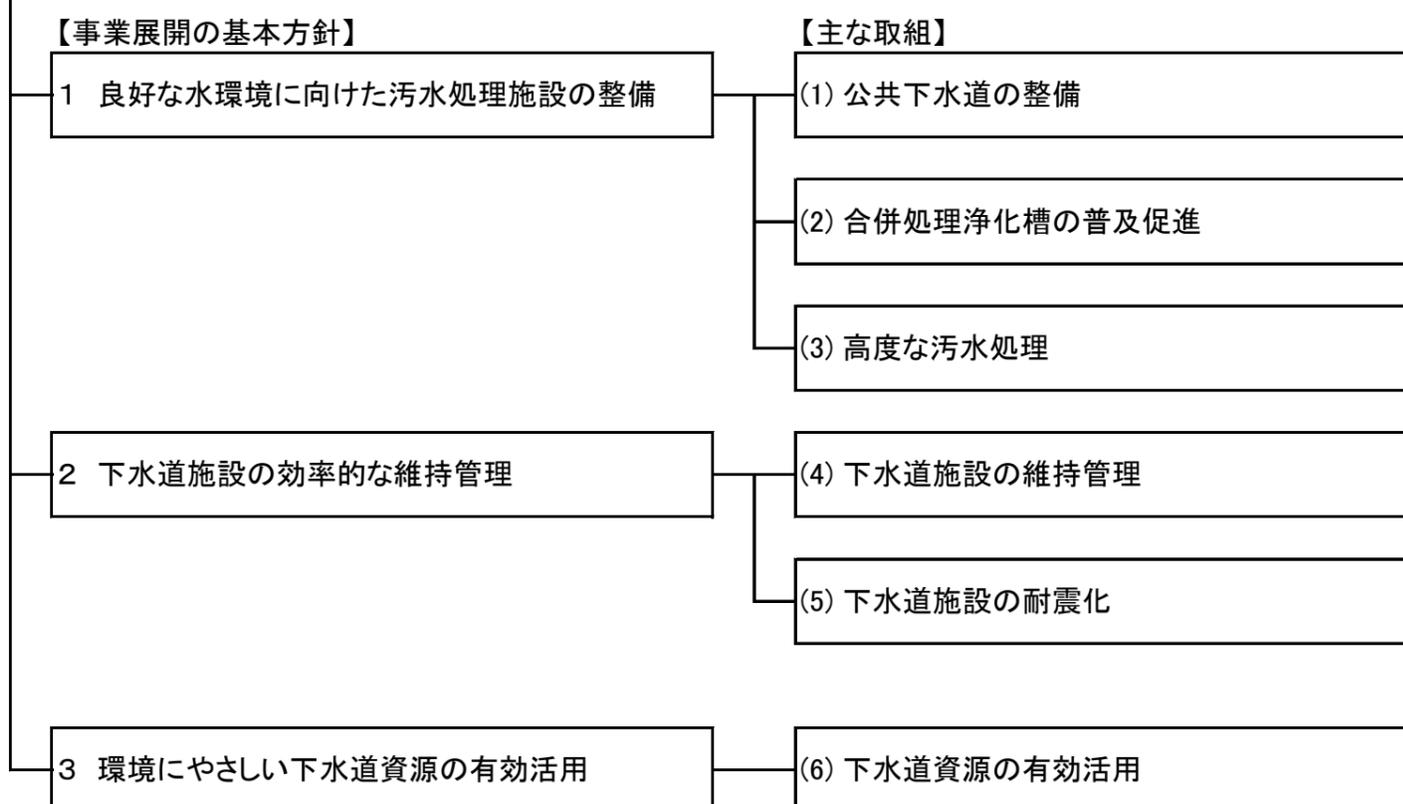
総合的な汚水処理対策による良好な水環境の実現に向け、引き続き下水道施設の適切かつ効率的な維持管理と計画的な更新、耐震化及び災害対応能力を強化するとともに、合併処理浄化槽等への転換促進による放流水質の向上に取り組む。

## 1 施策の体系

第8節

【施策の目標】

総合的な汚水処理対策による良好な水環境の実現



## 2 SDGs 17ゴールとの関連



## 3 見直しの方向性

総合的な汚水処理対策による良好な水環境の実現に向け、熊本地震の経験を踏まえた下水道の地震対策の推進や、老朽化施設の計画的な更新に取り組む。

# SDGsの17の目標

	<p>貧困</p>	<p>あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p>
	<p>飢餓</p>	<p>飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p>
	<p>保健</p>	<p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。</p>
	<p>教育</p>	<p>すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。</p>
	<p>ジェンダー</p>	<p>ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子のエンパワーメントを行う。</p>
	<p>水・衛生</p>	<p>すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。</p>
	<p>エネルギー</p>	<p>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する。</p>
	<p>成長・雇用</p>	<p>包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク（適切な雇用）を促進する。</p>
	<p>イノベーション</p>	<p>レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る。</p>
	<p>不平等</p>	<p>各国内および各国間の不平等を是正する。</p>

## SDGsの17の目標

	都市	包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する。
	生産・消費	持続可能な生産消費形態を確保する。
	気候変動	気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
	海洋資源	持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する。
	陸上資源	陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する。
	平和	持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る。
	実施手段	持続可能な開発のための実施手段の強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。